

平成 25 年度 東京都内湾水生生物調査 11 月成魚調査 速報

●実施状況

調査は 11 月 21 日に行った。当日は大潮で、満潮時刻は 18 時 06 分、干潮時刻は 12 時 45 分であった。調査時間帯の波高は 0.1 未満～0.5m/s で静穏であった。当日の下層水の溶存酸素 (DO) は、分析値で 7.2～7.4mg/L と高かった。

調査の結果、各地点の魚類の確認数は 0～4 個体と少なかったが、9 月のように無生物の調査地点はなかった。なお、St. 25 において、タチウオの幼魚が確認された。

成魚調査時の各地点の概況を下表に示す。

調査地点	St. 10		St. 22		St. 25		St. 35	
調査時間帯	13:00～13:32		12:10～12:40		11:10～11:41		9:40～10:34	
水深(m)	7.4		14.0		16.3		25.7	
天候	快晴		快晴		快晴		快晴	
気温	14.5		13.4		13.2		12.9	
風向/風速(m/s)	S/1.3		無風		E/1.2		N/1.6	
波浪(m)	0.1		<0.1		<0.1		0.5	
水色	緑褐色・中		灰黄緑色・濃(暗)		灰黄緑色・濃(暗)		灰黄緑色・濃(暗)	
透明度(m)	2.5		2.9		2.5		2.8	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(°C)	16.7	16.3	16.5	16.9	16.2	17.2	15.0	17.1
塩分	30.5	30.8	30.6	31.7	29.6	31.2	28.0	32.4
pH	7.9	8.0	8.1	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0
DO(mg/L)	8.8	7.3	9.2	7.2	8.3	7.4	8.2	7.4
臭気	下水臭(微)	無し	下水臭(微)	無し	下水臭(微)	無し	カビ臭(微)	カビ臭(微)
備考								

観測層：上層(0m)・下層(海底面-1m)、潮汐時刻：東京都港湾局のデータ

●主な出現種等(速報なので、種名等は未確定です)

主な出現種等	St. 10	St. 22	St. 25	St. 35
魚種 (多い順 ^注)	魚類は 確認されなかった	アカエイ(1)	タチウオ(1)	マコガレイ(1)
		テンジクダイ(1)		テンジクダイ(1)
		カタクチイワシ(1)		ネズツボ科(1)
魚類以外	イッカクモガニ(r)	スナヒトデ(c)	タイラギ(1)	シャコ(+)
	スナヒトデ(r)	イッカクモガニ(+)		フタホシイシガニ(+)
備考	11 月上旬に貧酸素水塊の発生を確認	魚類は他にマハゼ(1)を含めて 4 種と最も多く出現した。	タチウオは平成 4 年以來 21 年ぶりに出現した。	魚類も含めた、出現生物種数は 4 地点の中で最も多かった。

注) 表中の () 内の記号は大まかな個体数を表す。

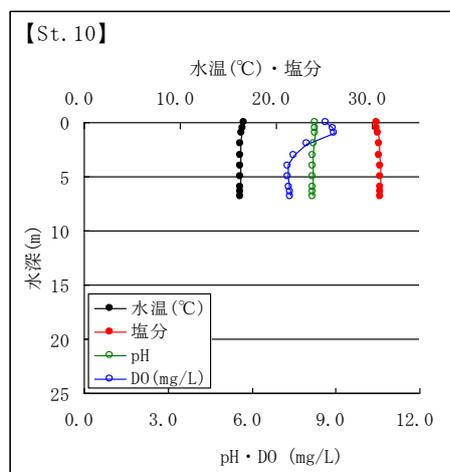
G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5-20 個体未満、r:5 個体未満

St.10

調査地点位置



水質の状況



注) グラフデータは計測値

「東京湾海洋情報センター」ホームページの、水質モニタリングポストのデータ (<http://www.tbeic.go.jp/MonitoringPost/index.asp>) によると、浦安沖で11月7~9日、貧酸素水塊(D.O.:4.3mg/L以下)が観測されており、周辺水域にも貧酸素状態が生じた可能性が高く、この影響が残っていたことが伺われる

作業状況



採取試料



確認生物

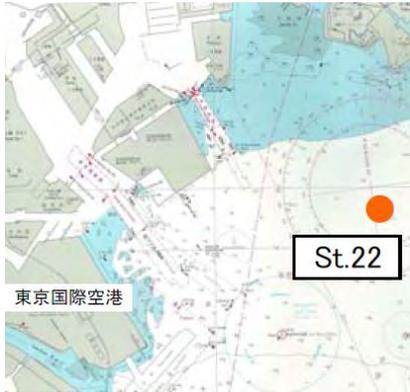
イッカククモガニ



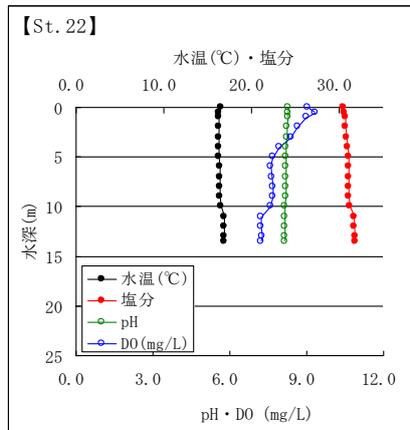
北米大陸西部沿岸原産の外来種。内湾の砂泥底に生息するカニで、東京湾奥部に多く生息する。貧酸素に比較的強く、通年で繁殖するため、優占種となることが多い。

St. 22

調査地点位置



水質の状況



注) グラフデータは計測値

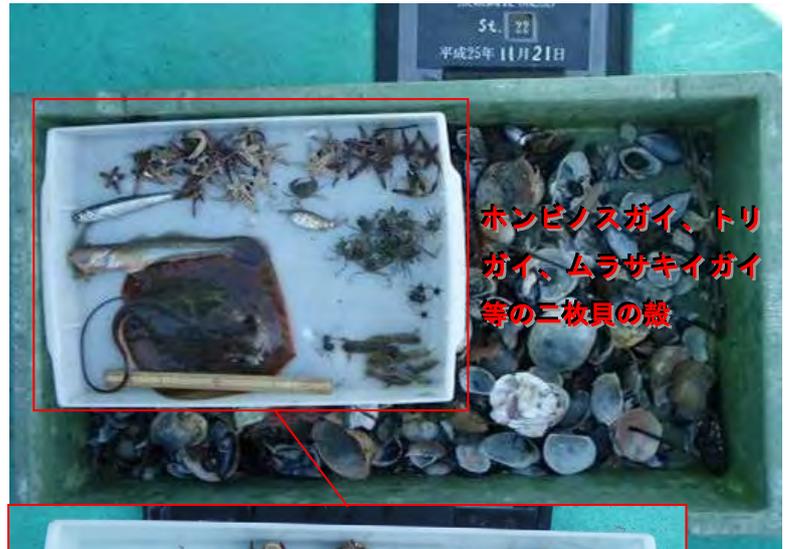
確認生物

アカエイ



沿岸の砂泥底に生息するエイで、東京湾奥部に非常に多く大型に成長する。尾部に毒針を持ち、刺されると非常に痛い。お台場海浜公園や葛西人工渚にても確認され、注意が必要である。

採取試料



カタクチイワシ



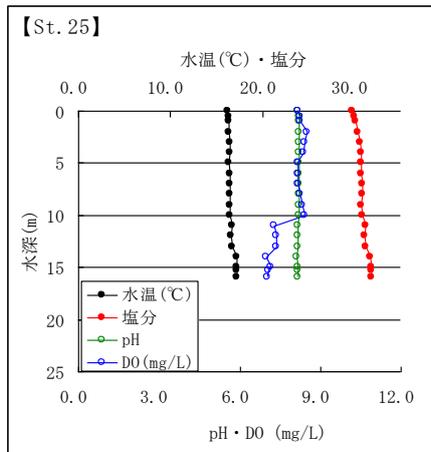
日本全域の沿岸から朝鮮半島、中国、フィリピンまで生息する。水産上重要種で、稚魚(シラス)から成魚(煮干、目刺)まで全国で多獲される。群れで回遊するが、東京都内湾域では通常あまり大きな群れは認められない。

St. 25

調査地点位置



水質の状況



注) グラフデータは計測値

タイラギ



東京湾の砂泥底に生息する二枚貝で、湾奥部では夏季に貧酸素により、斃死してしまい貝殻のみ確認される。9月の調査では貝殻のみであったが、今回は、約3cmの生きた貝が確認された。9月以降に着底したものと思われる。

採取試料



確認生物

タチウオ



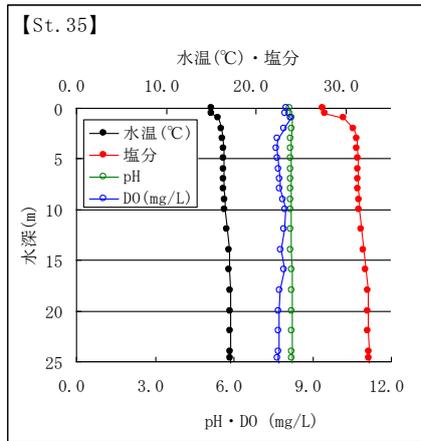
東京湾では水深のある湾口部に生息する。内湾奥部に入り込んでくる事はまれで、偶来性の魚類である。過去の東京都内湾域の成魚調査では昭和63年、平成3年および4年にそれぞれ1個体記録されているのみで、11年ぶりに確認された。肉食性で成魚は鋭い歯を持つ。

St. 35

調査地点位置



水質の状況



注) グラフデータは計測値

確認生物

マコガレイ



水深 100m 以浅の砂泥底に生息する。産卵期は冬で、東京湾では 40cm 以上のものも出現する。5 月の調査では、本調査地点のほか St. 22 で 5~10cm の幼魚が確認された。

採取試料



ホンビノスガイ、トリガイ、タイラギ等の二枚貝の殻



シヤコ



かつて、東京湾内湾域の砂泥底に多く生息していた。近年激減し、姿を消していたが、最近夏季以外には、継続して確認されている。

テンジクダイ



東京湾の砂泥底に多く生息するが、内湾奥部には少ない。約 8cm までしか成長しない小型魚で、親魚が卵を口の中にくわえて、孵化するまで保護する習性を持つ。